（別記）

令和８年度あわら市農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

１　地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

あわら市は北部の丘陵地、東部の中山間地、南部の平坦地に分かれている。中山間地、平坦地では、転作作物の作付けをブロックローテーションによる団地化での作付けを行っている。しかし、農業者の高齢化に伴い離農者が増加しているため、担い手による農地集積を進めていく必要がある。一方、丘陵地では、個人による園芸作物の作付けが行われている。今後も園芸作物の作付けを維持するため、支援を行っていく必要がある。

２　高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

農家の所得向上を図るため、市再生協議会、JA、農林総合事務所を中心に、福井県の重点推進品目、一般推進品目および地域推進品目として北部丘陵地を中心に作付けされている、「メロン」、「スイカ」、「ダイコン」、「コマツナ」を振興作物として推進拡大を目指す。

３　畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

主食用米の需要が減少している中、野菜等の生産に取り組む農家の経営転換を後押しし、計画的な畑地化の推進をする。また、畑作が定着している水田については毎年行う転作確認にて現地点検を進め、必要に応じ、農家組合長等を通じてブロックローテーションへの取組状況の聞き取りを行うとともに、農業者に対し畑地化を推進する。

４　作物ごとの取組方針等

（１）主食用米

生産数量の目安に沿った作付面積を確保する需要に応じた生産をおこなうとともに、九頭竜川パイプラインによるきれいで冷たい水を利用することで、ブランド米などの良質米を生産する。

（２）備蓄米

畑作物の作付けが不向きな水田を活用し、安定した価格により収益が見込まれるため推進を図る。

（３）非主食用米

ア　飼料用米

畑作物の作付けが不向きな水田を活用し、実需者の需要に応じた生産を目指す。

イ　米粉用米

畑作物の作付けが不向きな水田を活用し、実需者の需要に応じた生産を目指す。

ウ　新市場開拓用米

畑作物の作付けが不向きな水田を活用し、実需者の需要に応じた生産を目指す。

エ　WCS 用稲

畑作物の作付けが不向きな水田を活用し、実需者の需要に応じた生産を目指す。

オ　加工用米

畑作物の作付けが不向きな水田を活用し、実需者の需要に応じた生産を目指す。

（４）麦、大豆、飼料作物

適地適作を進めるとともに、排水対策などの基本技術の徹底による高品質で安定した生産を目指す。また、麦跡の大豆の作付を推進する。なお、担い手への圃場の集積、ブロックローテーションによる団地化での生産を推進する。

（５）そば、なたね

そばについては、適地適作を進めるとともに、排水対策及び小畝立てなどの基本技術を徹底し、高品質で安定した生産を目指す。

（６）地力増進作物

作物に応じた地力増進を図るために、土壌診断に定期的に取り組み、土壌改良剤等と複合して地力増進作物の取り組み面積の増加を目指す。

（７）高収益作物

野菜等の生産に取り組む農家の経営転換を後押しし、計画的な畑地化を推進する。

５　作物ごとの作付予定面積等　～　８　産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

※　農業再生協議会の構成員一覧（会員名簿）を添付してください。

別紙

５ 作物ごとの作付予定面積等

（単位:ha）

作物等	前年度作付面積等		当年度の作付予定面積等		令和８年度の作付目標面積等	
		うち二毛作		うち二毛作		うち二毛作
主食用米	1635.1		1740		1740	
備蓄米						
飼料用米	47.8		16.6		16.6	
米粉用米	12.1		10.3		10.3	
新市場開拓用米	9.6		16.5		16.5	
WCS用稲	5		7.9		7.9	
加工用米	133	7.8	130		130	
麦	571.1		493.3		493.3	
大豆	291.6	289.4	300	295	300	295
飼料作物						
・子実用とうもろこし						
そば	284.4	259.5	230	205	230	205
なたね						
地力増進作物						
高収益作物	28.52	1.3	28.32	1	28.32	1
・野菜	28.1	1.3	28	1	28	1
・花き・花木	0.4		0.3		0.3	
・果樹	0.02		0.02		0.02	
・その他の高収益作物						
その他						
・〇〇						
畑地化	0.5					

６ 課題解決に向けた取組及び目標

整理番号	対象作物	使途名	目標		
				前年度（実績）	目標値
1	大豆	団地化・集積加算 （二毛作）	作付面積 品質・単収向上	（R7年度）286.4ha 規格外越 143kg/10a	（R8年度）295.0ha 規格外越 150kg/10a
2	メロン、スイカ、 ダイコン、コマツナ	地域作物助成	作付面積	（R7年度）1.6ha	（R8年度）3.0ha

※　必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。
※　目標期間は３年以内としてください。

7　産地交付金の活用方法の概要

都道府県名：

協議会名：

整理番号	使途 ※1	作期等 ※2	単価 （円/10a）	対象作物 ※3	取組要件等 ※4
1	団地化・集積加算（二毛作）	2	2,000	大豆	麦跡および、団地化もしくは認定農業者が作付
2	地域作物助成	1	35,000	メロン、スイカ、大根、コマツナ	作付面積に応じて支援

※1　二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「〇〇〇（二毛作）」、耕畜連携の場合は使途の名称に「〇〇〇（耕畜連携）」と記入してください。
　　ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。
　　なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「〇〇〇（耕畜連携・二毛作）」と記入してください。
※2　「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、二毛作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「4」と記入してください。
※3　産地交付金の活用方法の明細（個票）の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。
※4　産地交付金の活用方法の明細（個票）の具体的要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。